

西日本旅客鉄道株式会社 山陽線 笠岡駅～里庄駅間において発生した
鉄道事故の調査について
(経過報告)

令和6年11月28日
運輸安全委員会（鉄道部会）

運輸安全委員会は、令和5年12月5日、西日本旅客鉄道株式会社の山陽線^{かきおか}笠岡駅～^{さとしょう}里庄駅間において発生した鉄道事故（鉄道人身障害事故）について、令和5年12月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、事実情報に関する情報の入手、原因の分析及び再発防止策の検討のために、更に一定の時間を要する状況である。このため、本調査については、本鉄道事故が発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり本調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本鉄道事故に関し、運輸安全委員会設置法に基づき、鉄道事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、事故の責任を問うために行うものではない。

1. 鉄道事故の概要

西日本旅客鉄道株式会社の山陽線笠岡駅～里庄駅間において、停止表示方式^{*1}に伴う作業の列車見張りのために、中坪一踏切の線路脇に停止表示標^{*2}を設置し立哨していた停止手配員^{*3}は、令和5年12月5日（火）2時22分ごろ、日本貨物鉄道株式会社の鳥栖^{とす}貨物ターミナル駅発大阪貨物ターミナル駅行き25両編成の上り高速貨第60列車と触車した。

この事故により、同停止手配員が死亡した。

*1 ここていう「停止表示方式」とは、作業現場から800m以上隔てた位置に配置された停止手配員が停止表示標を常時掲出しておき、作業責任者から作業現場への進入許可がない状態で進来た列車等に対して停止手配を行うこと等により、作業グループ全員の安全を確保する方式をいう。

*2 ここていう「停止表示標」とは、停止表示方式において停止手配員が実施する停止手配を補助するとともに、乗務員が認めた場合は停止手配をとるため、作業責任者から作業現場への進入許可がない限り常時掲出しておくものをいう。

*3 ここていう「停止手配員」とは、停止表示方式において停止表示標を常時掲出しておき、作業責任者から作業現場への進入許可がない状態で、進来た列車等に対して停止手配を行う等により、作業グループ全員の安全を確保することを主たる業務とするものをいう。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和5年12月5日、本鉄道事故の調査を担当する主管調査官ほか1名の鉄道事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、運行記録の解析、触車した現地の調査、施設及び車両の損傷状況に関する調査、気象に関する情報収集、触車事故防止に関する教育状況等に関する調査等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

(1) 運行の経過

日本貨物鉄道株式会社の上り高速貨第60列車の運転士は、山陽線笠岡駅～里庄駅間を速度約70km/hで走行中、中坪一踏切の笠岡駅方の前方左側（以下、前後左右は特に断りがない限り列車の進行方向を基準とする）で同停止手配員の白色灯を左右に振る合図（安全な位置に待避が完了していることを示す合図）を認めたため、同停止手配員の待避が完了しているものと思い運転を継続した。その後、同停止手配員の脇を通過した際に、異音を認めたため同列車を非常停車させ確認したところ、同停止手配員が倒れていることを認めた。（図1、図2 参照）

(2) 死傷者

死亡1名（同停止手配員）

(3) 鉄道施設、車両の損傷

- ① 中坪一踏切の笠岡駅方左側に設置された線間ポールが曲損していた。
- ② 高速貨第60列車の先頭車両の前面左側には、地面から約158cmの高さ付近に長さ約14cmの擦過痕が認められた。
- ③ 高速貨第60列車の先頭車両の前面左側には、地面から約140cmの高さ付近に取り付けられている長さ約10cmのジャンパ栓フック掛けにずれが認められた。

（図3、図4 参照）

(4) 気象

晴れ

4. 今後の調査

本鉄道事故の原因及び本鉄道事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、同停止手配員が触車に至った経緯、同停止手配員への教育状況や作業に伴う安全管理など、更なる事実確認や分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係機関への意見照会を行う必要がある。

当委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本鉄道事故の原因等の調査を進める。



※この図は、国土地理院の地理院地図（電子国土 web）を使用して作成

図1 事故発生場所付近の地形図

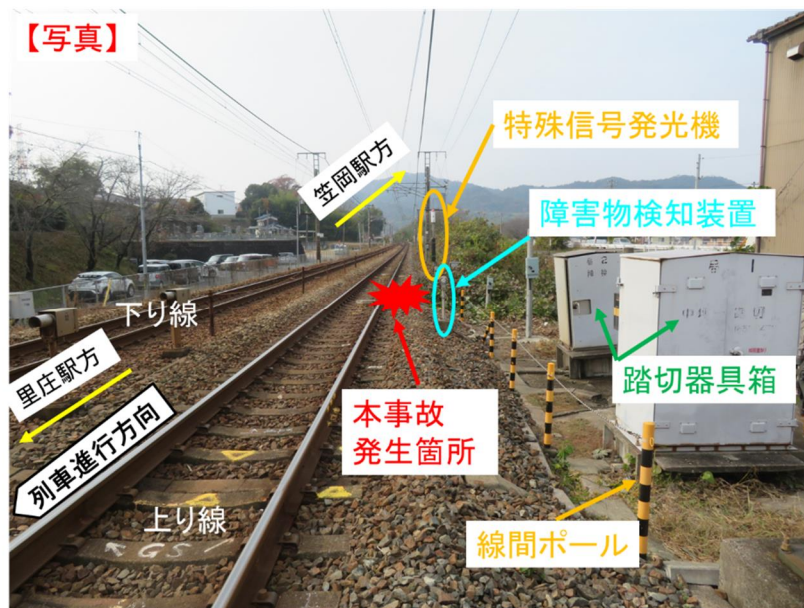
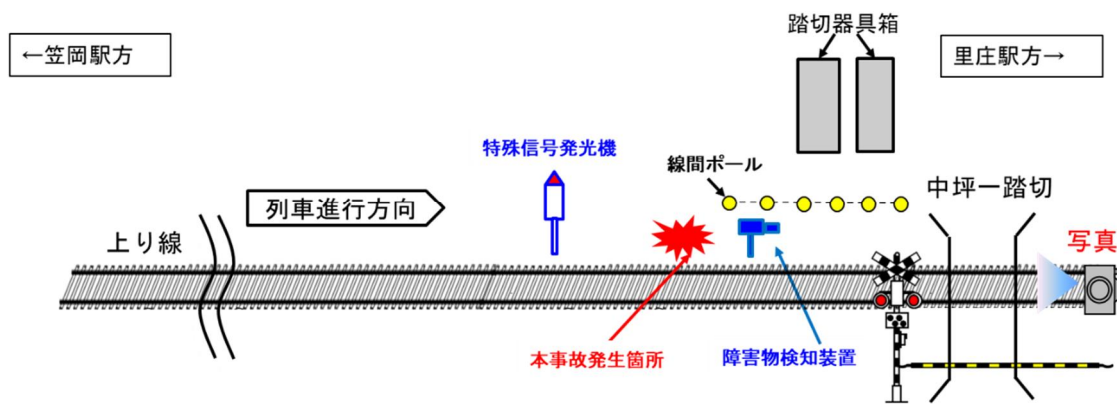


図2 事故発生場所付近の状況



図3 鉄道施設の損傷

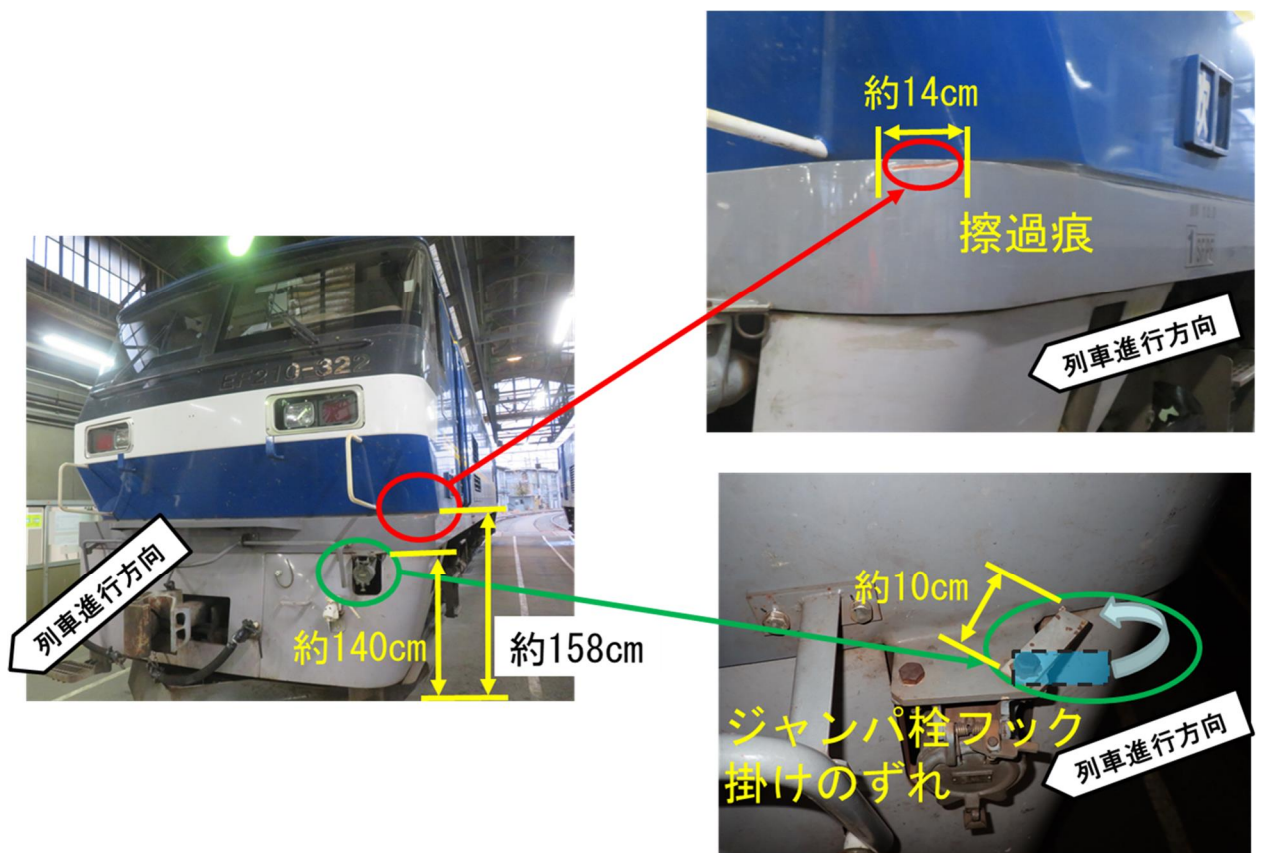


図4 先頭車両の損傷